

事業名	児童養護施設退所児童等へのアフターケア事業		団体名	認定NPO法人子どもシェルターモモ			事業総額 (決算額)	2,532,298
			担当課	こども企画総務課 こども総合相談所				
NO.	評価項目	5	4	3	2	1	評価の理由	
		多くの成果を得られた	想定以上の成果を得た	概ね想定どおりだった	課題が残った	多くの課題が残った		
1	協働の相乗効果、波及効果は生まれましたか？	○					アフターケア事業を岡山市の事業として実施することを目指して、アフターケア委員会等を通じて岡山市と協議を続けた結果、平成28年度から岡山市での事業化が決定した。	
2	提案団体と岡山市の役割・責任の分担は当初の予定どおりに実行されましたか？	○					アフターケア事業を岡山市の事業として実施することを目指して、アフターケア委員会等を通じて岡山市と協議を続けた結果、平成28年度から岡山市での事業化が決定した。	
3	協働事業のモデルとなることを意識して、今後につながる成果を生み出すことができましたか？	○					本協働事業でアフターケア事業を実施したことで、事業を実施するうえでの人員配置等の今後の課題を明確にすることができた。	
4	当初に設定された事業目標を達成することができましたか？	○					アフターケア事業を岡山市の事業として実施することを目指して、アフターケア委員会等を通じて岡山市と協議を続けた結果、平成28年度から岡山市での事業化が決定した。	

事業名	児童養護施設退所児童等へのアフターケア事業	団体名	認定NPO法人子どもシェルターモモ	事業総額 (決算額)	2,532,298
		担当課	こども企画総務課 こども総合相談所		
5	今後の展望について(NPOより)	平成28年度からは岡山市の事業としてアフターケア事業を実施する。 平成27年度の協働事業で実施したアフターケア事業では、子どものニーズに合わせた支援を行ったことで、人件費や交通費が予算以上の経費がかかっている。このことは今後の事業予算を組立てる上での課題である。			
	今後の展望について(岡山市より)	市民協働事業として退所前学び事業及びアフターケア事業の実績を積み、平成28年度からは岡山市の事業に組み込んで実施する。 2年間の取り組みを更に充実させることで、児童養護施設等からの退所した児童にとってかけがえのない居場所づくりをしていただきたい。 また、昨今注目されている子どもの貧困問題について、貧困の連鎖を断ち切るという意味からも、対象の児童が就労の機会に恵まれ、自立した生活を送ることができるよう、実効性を持った支援ができる事業となるよう期待している。			
6	総評(ESD・市民協働推進センター)	平成25年度から段階的・発展的に事業成果を積み重ね、平成28年度に一般施策化まで至ったことは今後の協働事業(主に社会的弱者といわれる立場にある方々の支援)のモデルとなる事業になりました。また、平成26年度事業では関係機関との情報共有も進み、利用者数では表すことのできない相乗・波及効果が生まれています。NPO、岡山市の双方のコメントにあるとおり、安定的な施設運営と支援のため、ひきつづき、事業の検証と改善を重ね、岡山市内における子どもたちのセーフティーネットの拡充に寄与していただくことを期待しています。			
7	目標管理(ESD・市民協働推進センター)	達成できた目標		達成できなかった目標	
		<p>目標①厚生労働省「退所児童等アフターケア事業」の申請(岡山市の一般施策化) 結果①申請され、平成28年度からの事業実施が決定した。</p> <p>目標②一般施策化を実現するための根拠や過去の実績の整理 結果②他県の事例なども含めて現状と必要な体制・サービス内容が整理され、「①」の申請時の参考資料として活用された。</p>		<p>目標①退所前学び事業の参加者数:平均20名/6回 結果①平均9名(のべ53名)/6回 想定される原因①すべての回を土日の開催としていたため、部活動に参加している子どもが参加できなかった。また、会場までの移動(送迎を含む)の調整ができず、参加を断念するケースも見られた。広報の都合上、日時や会場を早い段階で決定しておく必要があり、十分に子どもの都合に配慮した設定や途中での変更ができなかった。</p>	